

2021・7・11

中村寿夫

「ここまで主が私たちを助けてくださった」

サムエルの生涯Ⅲ

サムエル記第一 7章 1節～17節

はじめに

サムエルは成長し、主の預言者として任命されました。そのことは、全イスラエルが知りました。

当時、ペリシテ人がイスラエルを攻撃していました。イスラエルは連敗し、神の箱は奪われてしまいました。祭司エリの息子ふたりも死に、それを聞いたエリも死にました。

神の箱は、ペリシテに災いをもたらしたので、イスラエルに返されました。そして20年の時が流れ、イスラエルは、主を慕い求めていました。

1 心を主に向け、主にのみ仕えるなら（3）。

イスラエルは、ペリシテに連敗し、支配されていました。イスラエルの人々が今、救いを主に求め始めたことを認めたサムエルは、イスラエル全家に言いました。

（1）外国の神々やアシュウタロテを取り除きなさい。

イスラエルの民は、その地の民が拝んでいた神々を拝んでいたのです。

バアル：カナンの肥沃神。

アシュウタロテ：バアルの妻と考えられ、肥沃、多産、愛、快樂の神。

イスラエルの民はこれに應えて、違法の神々を取り除きました。

適用：神に立ち返る第一歩は、偶像を捨てることです。神よりも大切にすることがあれば、それはすべて偶像です。

ある人にとっては、恋人、家庭、お金、世の中での成功、趣味、娯楽など等。

（2）心を主に向け、主にのみ仕えなさい。

イスラエルの人々の心は主に向かず、偶像に向けられ、主に仕えることはしませんでした。

いま、サムエルの勧めを受け入れ、主にのみ仕えるようになりました。

適用：二番目に必要なのは、心を主に向け、主にのみ仕えることです。クリスチャンでも、この点があいまいな人がいます。主を信じるだけでなく、心を主に向け、主に仕えることです。

2 イスラエル人をみな、ミツパに集めなさい (5)。

サムエルは、民をミツパに集めました。そこは聖会を開くのにふさわしいと思われたのでしょう。そこで、サムエルは民のために祈ろうとしたのです。

(1) 私たちは主に對して罪を犯しました (6)。

先に、民は外国の神々を除いて、主にのみ仕えるようになりました。しかし、ここで主の前に礼拝をささげ、断食をするうちに、「私たちは主に對して罪を犯しました」と罪の告白をしたのです。

適用：聖書は、罪を告白することの大切さを教えています。「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます」(Iヨハネ 1:9)。

(2) サムエルの祈り。

サムエルが民をミツパに集めたのは、民のために祈るためでした。サムエルは、民の告白を聞き、主に祈り、主の赦しを宣告したのでしょう。

適用：イエス様は、ペテロに「あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました」と言われました(ルカ22:32)。そして、今日、イエス様はご自身のもとに来るすべての人々のために、とりなしの祈りをささげておられます。

3 ペリシテの攻撃と神の助け (7-17)。

民がミツパに集まったと聞いて、ペリシテはイスラエルを攻めました。イスラエル人は、恐れ、サムエルに助けを求めました。

(1) サムエルは、いけにえをささげて主に祈りました(9)。

民は、サムエルに祈りを求めたのです。「私たちの神、主に叫ぶのをやめないでください。私たちをペリシテ人の手から救ってくださるように」。

イスラエルの民には、もはや武器はありませんでした。当時、ペリシテ人は、イスラエルが武器を持つのを恐れて、鍛冶屋を許さず、鋤、鍬、斧、鎌を研ぐのにペリシテ人の所に行かねばならなかった。

ですから、ペリシテ人の攻撃に対して、イスラエルは、武器なしの状態でこれに向かわねばならなかったのです。ですから、彼らは主に祈るほかはありませんでした。

適用：神様は、ご自身の力を現すために、しばしば私たちに窮地に陥れます。それは、神様のみを信頼するためです。

(2) 主の奇跡が起こり、イスラエルは勝利しました(10)。

サムエルは、主に全焼のいけにえを供えていました。サムエルもまた、主にのみ信頼し、主を礼拝することに専念したのです。その時、主はペリシテ人の上に、大きな雷鳴をとどかせ、彼らをかき乱したので、イスラエルは勝利しました。

(3) エベン・エゼル(ここまで主が私たちを助けてくださった)(12)。

サムエルは、一つの石を置き、「エベン・エゼル」と名付けました。「ここまで」というのは、「これほどまでに」という意味でしょう。

絶対絶命の時にも、主に心に向け、主にのみ仕えるなら、主は助けてくださるという教訓です。

(4) サムエルは、毎年、ベテル、ギルガル、ミツパを巡回し、それらの地でイスラエルをさばいた(16)。

サムエルは、「一生の間、イスラエルをさばいた」と

ありますように、彼は預言者であるとともに、「さばきつかさ」でもありました。「祭壇を築いた」とあるので、「祭司」でもありました。

適用：預言者であり、祭司であり、さばきつかさであったサムエルは、ユニークな存在でした。預言者であり、祭司であり、王であるキリストに近い人であったとも言えるでしょう。

結論

この章は、神の民イスラエルがなぜ、ペリシテに支配されなくてはならなかったかを明らかにしています。それは、主に心を向けず、主に仕えず、外国の神々に仕えたことでした。

そこから立ち返るのは、偶像を捨て、主にのみ仕えることでした。

主にのみ仕えるとき、どのような不利な条件の時も、主は助けてくださることをも、ここは教えています。

聖書が私たちに求めているのは、

- 1 神様がおられて、求める者には必ず応えてくださると信じること。
- 2 自分が神様に罪を犯していることを認めること。
- 3 イエス様が私たちの罪の身代わりとなって十字架にかかり死んでくださったこと、そして復活して、生きた救い主として私を迎えてくださることを信じること。
- 4 イエス様を信じるだけで、自分の罪が赦され、神様の子どもとして受け入れられることを信じること。